

附

錄

○附 錄

地 質

本縣ノ土壤ヲ構成スル岩石ハ火成岩、及水成岩ニシテ

(一) 花崗岩地ハ各地ニ現出スレモ各其占ムル所ノ廣袤甚タ狹隘ニシテ敦賀郡ノ南部足田村地方及三方郡耳川ノ東西ニ於ケル地方ニアルヲ以テ其面積較大ニシテ多少農業ニ關係ヲ有スルモノトス其他敦賀及三方ノ兩郡ニ跨リ半島形ヲナス土地ヲ構成スル本岩地亦大ナレモ地勢最モ山嶽ニ富ミ耕地ハ山腹傾斜ノ地ニ於テ散在スルノミ

(二) 石英玢岩地ハ大野郡ノ各所及吉田、足羽ノ兩郡ニ跨リテ現出スレモ其面積大ナラス其地勢亦峻嶮ニシテ耕耘ニ適スルノ地甚狹少ナリ

(三) 火山岩地ハ三大區域ニ分レテ現出シ其廣袤甚タ大ナリト雖モ現在ノ耕地ハ甚タ狹少ナリトス本地質ニ係ル土壤ハ角閃安山岩或ハ輝石安山岩ノ分解シタル者ニシテ其表面ノ土壤ハ概シテ埴土ナリ

(四) 片麻岩地ハ大野郡ノ各地ニ露出スレモ其廣袤何レモ極メテ狹隘從テ耕地面積亦甚タ狹少ナリ

(五) 閃綠岩及蛇紋岩ハ敦賀及大飯郡ノ一局所ニ露出スレモ重ニ峻嶮溪谷ノ地ニ屬シ土壤ヲ構成スル面積甚タ狹隘ニシテ土性トノ關係薄ク且將來農業上大ニ望ヲ屬スヘキ地性ニアラス又石英斑岩ノ如キモ大野郡ノ各所ニ點々露出スルト雖モ土地險阻ニシテ稼穡ニ適スル土壤ヲ構成スル面積亦狹少ナリ

(六) 古生紀岩地ハ本縣中最大區域ヲ占メ其北端ハ今立及丹生ノ兩郡ニ起リ南條郡ヲ貫キ南延シテ近江國及敦賀郡ニ入り同郡ノ中央ニアル花崗岩ニ切斷セラレ再ヒ同郡及三方郡ノ境界ニ露出シ若狹國殆ント全部ヲ貫キ近江、丹波、及丹後ニ入ル又本縣ノ東北隅ニ於テ小面積ノ土地ヲ構成ス此ノ如ク最モ廣濶ナル土地ヲ占領スレモ土地悉ク峻嶮ニシテ山嶽高峰或ハ丘陵傾斜ノ地ニ屬シ耕耘ニ適應セルノ地ハ質ニ狹少ナリ而シテ其地形ヲ見ルニ山腹傾斜ノ地或ハ溪流河岸ニ沿フテ星點スルニ過キササルナリ

(七) 中生紀岩地ハ本縣中各地ニ露出スレモ其廣袤概シテ大ナラス然レモ獨リ大野郡ノ東南隅ニ現出シ越前美濃ノ國界ニアル山脈ヲ構成スルモノハ其面積較々廣濶ナリ而シテ本岩地ノ地勢ハ概シテ山嶽峻嶮農耕地トシテ使用スル面積ハ甚タ僅少ニシテ重ニ山腹傾斜ノ地ヲ耕耘シ平坦ナル土地ハ極メテ僅少殆ント之ヲ見サルナリ

(八) 第三紀層ニ屬スル地ハ甚タ廣濶ナル部分ヲ占領ス本紀ヲ構造スル岩種ハ砂岩凝灰岩等ニシテ加賀國江沼郡及坂井郡ノ境界ヲナス山陵ハ本紀ノ岸石ヨリ成リ福井平原及今立郡鯖江四隣ヲ圍繞スル山陵丘阜亦本地層ノ構造ニ係ル者ニシテ漸次南ニ向ケ延長シ南條郡湯尾嶺ニ至テ止マル又丹生郡ノ海岸ニアル丘阜モ亦此地層ノ土地ナリ而シテ其地勢ハ山嶽高嶺ニ乏シク概シテ丘陵ノ形狀ヲ有スレハ多少斜面ヲナセトモ其度緩慢ニシテ或ハ平坦砥ノ如キモノナリ

(九) 第四紀古層地ハ本縣中本地質ノ構造ニ係ルモノ數ヶ所ニ散在露出スレモ多クハ臺地ヲナシテ其區域甚タ狭少ナリ然レモ今立郡鯖江地方大野郡勝山町四近及同郡富田村地方ニ於テ或ハ原野ノ形狀ヲ現セモ平坦ナル耕地ヲ構造シ且市街ニ接近シ運輸ノ便アレモ農耕上重要ノ關係ヲ有スルモノナリ

(十) 第四紀新層地ハ本縣内最重要ナル農耕地ニシテ其沖積地ヲ區別スレハ左ノ如シ

(イ) 足羽郡ノ平地ハ足羽川ノ氾濫ニ際シテ沖積シタルモノニシテ其土性ハ埴土ナリ

(ロ) 大野郡大野町四近ノ平地ハ眞名川沖積地ニシテ本地方ノ中央部ニ於テハ埴土ナレモ漸次其周圍ニ至レハ石礫ヲ含有シテ礫質埴土トナル

(ハ) 大野郡勝山町四近ノ地ヨリ坂井郡鳴鹿村西部地方ニ至ル間ノ平地ハ九頭龍川沖積地ニシテ坂井郡ノ平地ハ悉ク九頭龍川、足羽川、日野川及其支流ノ働作ニ係ルモノナリ本地方ハ河川ノ平流區域ニ屬スレハ其漂積物亦細微ニシテ一般ニ埴土ナリ然レモ本河流ノ沿岸ニ至レハ屢河水氾濫シテ細粒ノモノヲ淘汰スレハ其土性ハ壤土ナリ又海濱ニ累積セル砂阜ニ接近スル地方ハ屢々風波ノ働作ニヨリ土砂ヲ飛揚シ之ヲ土壤中ニ混淆スルヲ以テ坂井郡西部ノ地方ハ砂土ヲ含有スル事多クシテ自然其土性ハ變シテ壤土トナル

(ニ) 南條、今立及丹生ノ各郡ヲ貫通スル沖積地ハ日野川及其支流ノ働作ニ係ル者ニシテ其上流ニ於テハ流勢急ナルヲ以テ其構造セル土性ハ壤質埴土ナレモ其下流ニ至レハ其水勢緩漫トナレハ隨テ其地方ノ表土ハ埴土トナリ下層ニ於テハ石礫ヲ混有ス

(ホ) 敦賀灣ニ瀕スル平地ハ河海ノ作用ニ依テ成リ海濱ニアリテハ海成沖積地ニシテ其土性ハ砂土ナレモ漸次内地ニ入ルニ從ヒ筈ノ川沖積地トナリ其土性ハ礫質壤土ナレモ其流末ニ於テハ石礫ヲ含有スルヲ僅少ニシテ砂質トナル

(ハ) 三方郡ノ海濱ニアル土地ハ海水ノ作用ニ依リテ成ルモノナレハ其土性ハ砂土ナリ又内地ニ於テハ河水ノ働作ニ依リテ沈積シタルモノナレハ其水勢ノ緩急ニヨリ其土性ハ埴土アリ礫質埴土或ハ壤土トナリ現出ス

(ト) 遠敷郡ノ海濱ニ亦海成沖積地アレモ最モ農耕ニ關係アルハ北川南川及其支流ノ沖積地ニシテ本地ハ全ク古生紀岩層ノ山嶺丘阜ニ圍マレタル一低地ナリ又北川、南川、及其支流ハ共ニ古生紀岩地ヨリ發源シテ其經過スル地方ノ地質

亦同一ナレハ其浮流沈積シタル土壤ノ性質ハ殆ント同一ニシテ其大体ノ地味ヲ等フス然レモ河流ノ緩急及平流域ノ長短ニヨリ其器械的組織ヲ異ニス即チ北川ノ谿流ニ於ケル沖積地ハ表土石礫ヲ含有スレハ其土性ハ礫質埴土ナリト雖モ日笠地方ヨリ下流ハ平流域ニ屬シ水勢緩ナルヲ以テ埴土トナリ又南川沖積地ハ稍粘質ニ富ミ之ニ適宜ノ砂粉ヲ夾雜スレハ壤質埴土ナリトス

(チ) 大飯郡佐分利川モ其水源及經過スル地方ノ岩層ハ南北兩川ノモノト同一ニシテ古生紀岩地ナレハ其沖積物ノ性質亦相類似ス高濱地方ノ平地ハ海潮ニ關スル器械的操作ニ依テ沈積シタルモノナレハ其性質大ニ前記ノ河水沖積土ト異ナリ其地方ノ山嶽及平源ノ地質ニ關係スル極メテ僅少ナリ

其他石灰岩層アリテ片麻岩、古世紀岩、中生紀岩等ノ中各所ニ露出シテ大野郡敦賀郡三方郡等ニアル者ハ其面積極メテ大ナリ

福井縣工業試驗場事業功程

地所及建物ノ坪數 (明治四十一年十二月末日)

地所ハ福井市鍛川中町及ヒ吉田郡圓山西村松本地方ニ跨リ其坪數總テ三千坪ナリ
 建物ハ工場、汽鐘室、事務室、職工休憩所、及ヒ土藏ノ五棟ニシテ門ノ正面ニ玄關(二坪)ニ階造ノ事務室(二十四坪)及ヒ職工休憩所(十五坪)アリ其後方ニ長方形ナル工場(二百坪)ト汽鐘室(二十三坪)アリ又土藏ハ事務室ノ東南ニ位シ四間ニ五間ノ二階造ニシテ其他便所廊下等ヲ合セテ總坪數三百七坪ナリ

据付器械ノ種類及員數

一生絲線返機	一三臺	一再線返機	二臺	一ボビン卷機	三臺
一練絲管卷機	一臺	一合絲再線返機	二臺	一整經機	三臺
一耳整經機	一臺	一生絲糊付機	三臺	一生絲合絲再線機	三臺
一合絲糊付機	四臺	一佛國製力織機	五臺	一綜統製織機	四臺
一平田式力織機	一臺	一タオル織機	一臺	一手織機	七臺
一自働ボタン手織機	一臺	一ジャカード	四臺	一バンサンジ	一臺

一羽二重仕上機	一臺	一ピヤノマシン	二臺	一紋彫機	三臺
一米國式撚絲機	三臺	一ワインダー	一臺	一ダブリング	一臺
一揚返機	一臺	一檢類器	一個	一檢力計	一個
一檢尺機	一個	一檢位衡	一個	一檢燃機	一個
一銅製糊鍋	一個	一銅製染鍋	二個	一廻轉計	一個
一分析機械	一個	一蒸箱	一個	一汽鐘	一個
一汽油機	一個	一同上附屬品	一個	一毛髮溫度計	一個

試驗成績 (明治四十一年中)

羽二重經絲糊改良試驗

羽二重經絲用糊料トシテ布海苔、白蠟、セラチンヲ使用スルハ我國各地殆ト共通ナリトス然ルニ此等ノ糊料ハ羽二重精練界ニ於テ二十年來欠點トスル俗稱曇ノ原因タラサルナキカ或ハ少クトモ其欠點ヲ助長セシムルノ傾ナキカトハ久シク本場ノ疑問ヲ狹ミシ所ナリ依テ他ノ代用糊料ヲ得ント欲シ反覆十數回之レカ實驗ヲ試ミタリ

偶々本縣廳ヨリ玉蜀黍澱粉ノ使用試驗ノ囑托アリ又大阪工業試驗場長ノ紹介ニヨリ同地當業者ヨリフワリ大澱粉ヲ提供シテ之レカ實驗ヲ囑托サレタレハ此ノ二者ヲ主体トシテ試ミタリ

糊調製ニ於テ必要ナルハ唯タ其配合ノミナラス其煮方モ亦大ニ注意スヘキコトナルヘシ以下列記ノ糊モ凡テ煮過サ、ル様ニ注意シタリ

先ツ玉蜀黍澱粉ヲ主体トシテ調製ヲ試ムルコトトシ其ノ第一回ノ試驗ニ於テ、一玉蜀黍澱粉十五匁、一小麥粉八匁、一ワセリン五匁ト水一升トノ糊ニテ福井在來施行ノ方法ニ依リ糊付シタルニ再繰返シ困難ニシテ二本附着ノ度モ亦薄弱ナリ尙ホ第二回ニ於テハワセリンニ代ユルニバズリンヲ加ヘ第三回ニ於テハバズリンニ代ユルニグリセリン及オリーブ油ヲ加ヘ第四回ニ於テハオリーブ油ニ代ユルニ米麥粉ヲ加ヘ第五回ニ於テハ米麥粉ヲ省キ配合シタル糊ヲ以テ試驗セシモノハ何レモ再繰返シ附着力共ニ不良ナリキ第六回ニ於テ玉蜀黍澱粉、小麥粉、グリセリン、オリーブ油各十匁ニ水一升ノ配合第七回ニ於テハ玉蜀黍澱粉二十匁アラビヤゴム五匁グリセリン十匁ト水一升ノ配合及第八回ニ於テハ玉蜀黍澱粉七匁、米粉三匁、グリセリン十匁ト水一升ノ配合糊ノ成績ハ何レモ附着力稍ヤ可ナルモ再繰返シ不良ナリキ又第九回ニ於テ玉蜀黍澱粉八匁、グリセリン十匁、解舒液五匁ニ水一升ノ配合糊ハ再繰返シ良好ナルモ附着力薄弱ナリキ第十回ニ於テハ玉蜀黍澱粉十三匁、グリセリン十匁、解液一匁五分ニ水一升ヲ配合セシ糊ハ附着力繰返シ共ニ稍ヤ良好ナルニ至リシ

モ之ニテ主用原料タル玉蜀黍澱粉欠乏ヲ告ケタルヲ以テ一先ツ實驗ヲ中止シ次テフワリナ澱粉ヲ主体トシテ玉蜀黍澱粉ノ主体試驗ト同様ニ他ノ配合物ヲ變更シテ九回ノ試驗ヲ試ミタルモ何レモ殆ント類似ノ成績ニシテ其第九回目ニ於テ「フワリナ」澱粉十五匁、グリセリン十五匁、シルクリーラー少量ニ水一升ノ配合糊ハ再繰返シ並附着力共ニ稍良好ナリ

斯ノ如ク第九回ニ於テ再繰返附着力共稍々良好ナル者ヲ得タルヲ以テ之レカ製織上ニ於ケル結果ヲ見ント欲シ準備工程ハチユードロツシ式ヲ採用シ機臺ハ舊高柳式ヲ用ヒテ製織ヲ試ミタリ

一 原料 經緯共十四デニール

一 箆密度 一寸間百枚

一 經絲密度 三本合ノ者一羽二本入

一 緯絲密度 四本合ノ者一寸間百六十本

一 織上巾 一尺八寸

一 織機回轉數 一分間百二十回

製織ノ結果ハ經絲ノ摩擦スル毎ニ糊ノ剝脫多ク附着シアリタル經絲ハ各自離脫シ從テ切斷甚タシク頗ル困難ヲ感シタリ即チ知ル前記ノ調製糊ハ絲ニ附着セシメタル儘再繰返ヲ成スニハ能ク耐エ得ルモ未タ以テ製織ニハ耐エ能ハサルヲ以テ尙ホ引續キ實驗中ニアリ

製織困難ノ場合ニ於ケル救治方法

前記製織實驗ニ於テ經糊ノ剝脫ト共ニ絲ノ切斷甚タシク到底製織ヲ續行シ能ハサルニ至リシカハ種々之レカ救治策ヲ講シタリシニ最モ好結果ヲ得タルハ乳糖ヲアルコール又ハベンゼン等ノ揮發性油ニ適宜溶解シテ乳狀液ヲ造リ霧吹器ヲ用ヒ綜統前方ニ於テ經絲上ニ撒布スルニアリ然ル時ハ乳狀液ハ經絲ニ附着シアルコール又ハ揮發性油ハ直チニ蒸散シテ乳糖ノ粉末ノミ絲上ニ固着シ以テ容易ニ製織スルヲ得タリ蓋シ該粉末ノ爲メニ絲ト絲トノ摩擦ヲ減シ所謂絲ノ捌キヲ良クナシタルニ依ルナランカ

乳糖ニ代ユルニ各種澱粉ヲ用ヒアルコール又ハ揮發性油ニ代ユルニ水ヲ用ヒテ試ミタルモ良果ヲ得ル能ハサリキ澱粉ヲ用ユレバ幾分粘力ヲ生シ其目的ヲ達シ難ク亦タ水ヲ用ユル時ハ之レカ蒸發スルニ至ル迄時間ヲ空費セサル可カラサルノ不便アリ要ハ粘着性少キ細微ナル粉末ヲ揮發性ノ液体ニ溶解シ以テ使用セハ其目的ヲ達シ得ヘシ

糊無羽二重ノ試織

羽二重製造法中經絲ノ糊付ハ唯タニ其繁ニ耐エサルノミナラス或ハ精練上ニ有害ナルヲ以テ一ハ糊付工程ヲ省キテ完全ニ製織シ得ラル、ヤ亦如何ナル品位ノ物ヲ得ヘキヤヲ知ラントシ一ハ斯クシテ得タル物ヲ精練實驗用ニ供センカ爲メ全然糊付法ヲ施サスシテ製織ヲ試ミタリ

原料 經緯共十七、五デニール

一 篋密度 一寸間百枚

一 經絲密度 一羽四本入

一 緯絲密度 四本合セ物一寸間百五十六本

一 織上ケ 巾、二尺四寸 長、十二丈

一 織上量目 六百三十三匁

一 機臺 佛國チユードリツシ會社製

本試驗ニ於テハ特ニ原料ヲ精撰シ太絲ヲ用ヒタリ製織工程中格別困難ヲ感セサリキ而シテ製品々位ハ生ノ儘ニテハ極メテ完全ナルカ如クナリシモ精練後俗稱チカノ頗ル多キヲ見タリ其原因那邊ニ存スルヤ僅カニ一回ノ試織ナルヲ以テ判定ニ苦シム處ナリト雖モ經絲ニ與ヘタル張力ノ不充分ナルモ其一因ナランカ蓋シ無糊ノ場合ニ於テハ施糊シタル場合ノ如ク經絲ニ充分ナル張力ヲ與ヘ得サルカ如クナレハナリ尙ホ回ヲ重テテ之レカ實驗ヲ試ミントス
次ニ精練上ニ於テハ殆ト曇ノ生セサルヲ發見セリ

鹽瀨羽二重ヲ力織機ニテ試織

内地向羽二重ニシテ二十五付以上ノ極メテ厚キ重目羽二重ヲ力織機ニ依リ製織セント試ミタリ

一、原料 經緯共十四デニール

一、篋密度 一寸間百枚

一、經絲密度 一羽二本合ノ物十本引込

一、緯絲密度 十二本合セノ物一寸間九十六本打込

一、織上ケ 巾、一尺 長、三丈

一、量目 百八十匁

一、機臺 田淵式

斯クシテ練上廿七付見當ノ物ヲ得成績稍々可良ナリ實驗ニ徴スルニ如斯重目羽二重ヲ製織スルニ當テハ機臺ハ充分ニ堅

牢ニ取付モ充分ニ完全ナルヲ要シ千卷ニブレイキ装置ヲ施シ經絲ニハ充分ナル張力ヲ與ヘ織布ハ摩擦ビームノ助ケヲ藉ラス直接ニ布卷ニ箎ハ箎柄ニルーズナラスシテ固定シタルヲ便ナリトスルカ如シ

絹紡緯羽二重試織
 當業者ノ依託實驗ニカ、リ提供ノ原料ヲ以テ次ノ設計ニ依リ製織セリ

- 一 原料 經絲十二デニール緯絲絹紡八十番
- 一 箎密度 一寸間百枚
- 一 緯絲密度 一本使ヒ一羽二本入
- 一 緯絲密度 一寸間百八十本
- 一 織上ケ 巾、二尺四寸 長、十二丈
- 一 量目 二百九十匁
- 一 機臺 チュードリツシ會社製

十二丈物五疋掛ケ製織工程ニ移リタルニ經絲原料粗惡ナルガ爲メ切斷甚タシク多大ノ時日ヲ費シ辛フシテ一本ヲ製織シ得タルモ一定時間ニ於ケル織上量ノ如キ元ヨリ標準ト成ス能ハサルヲ以テ茲ニ記載セス更ニ製織續行ノ煩ニ耐エスシテ之レヲ手織機ニ移シ目下尙ホ製織中ニアリ製品ハ瓦斯燒機械ニ依テ毛燒工程ヲ施シ當業者ニ返附セリ其品位ニ至リテハ未タ精練後ノ該品ヲ見サルヲ以テ之レヲ判定スルニ由ナシ

輸出向壁縮緬試織
 本品ハ海外輸出品トシテ將來有望ナルヲ信シ本縣ノ如キハ殊ニ研究スヘキ主要ナルモノト認メ之レカ製織ヲ試ミタリ

- 一 原料 經緯共十四デニール
- 一 箎密度 一寸ニ付八十枚
- 一 經絲密度 一羽二本入
- 一 緯絲 所謂壁緯ニシテ生絲四本引揃ヘ之レニ一メートルニ付千五百五十回ノ撚ヲ與ヘ更ニ一本ノ生絲ト引揃ヘ反對ノ方向ニ九百五十回ノ撚ヲ與ヘタリ而シテ緯絲密度ハ一寸間百三十八本
- 一 織上ケ 巾、一尺八寸 長、十二丈
- 一 量目 三百六十匁
- 一 機臺 チュードリツシ會社製力機織

製品ハ京都市西陣撚絲再整株式會社ニ托シ精練仕上ラ施シタルニ結果良好ナルカ如シ
輸出向縮緬試織

本品モ前記壁縮緬ト同一ノ目的ヲ以テ試製セリ

一 原料 經緯共十四デニール

一 箆密度 一寸間八十枚

一 經絲密度 一羽二本通シ

一 緯絲 所謂縮緬緯ニシテ生絲二本引揃ヘ之レニ一メートルニ付二千五百回ノ撚ヲ掛ケ左右二種ノ

撚ヲ用ユ而シテ打込數ハ一寸間五十六本

一 織上ケ 巾、一尺八寸 長、十二丈

一 量目 二百四匁

一 製織量 十時間六尺

一 機臺 手織機

本品モ精練仕上ハ京都西陣撚絲再整會社ニ托セリ結果不可ナラス

絹紡緯生タフタ試織

本品モ亦タ本縣ノ如キ生織物生産地ニ於テハ容易ニ製シ得ラル、將來有望ナル輸出向適品ト認メ試驗シタル物ニシテ緯
絲ニ紡績絹絲ヲ使用シタルハ廉價ニシテ且ツ一種ノ趣味ヲ有スル製品ヲ得ントシタルニ外ナラス

一 原料 經絲十四デニール緯絲絹紡八十番

一 箆密度 一寸間百五枚

一 經絲密度 二本合セノ物一目三本通シ

一 緯絲 一寸間百二十本

一 織上ケ 巾、二尺 長、十二丈

一 生量目 六百六十三匁

一 織高 十時間二丈五尺

一 機臺 デニードリツシ會社力織機

製品ニ就テ見ルニ生織物ノ儘ニテハ品位良好ナルカ如シ然レモ未タ精練ヲ施サ、ルヲ以テ精練後ノ欠點ハ之レヲ知ルニ由ナシ

瓦斯緯生タフタ試織

前記絹紡緯生タフタ製織ト同一目的ノ下ニ試織シタリ

- 一 原料 經絲十四デニール緯絲八十番シルケツト
- 一 箆密度 一寸間百五枚
- 一 經絲密度 二本合セノ物一羽三本入
- 一 緯絲密度 一寸間百二十本
- 一 織上ケ 巾、二尺 長、十二丈
- 一 量目 六百八十匁
- 一 織高 十時間二丈
- 一 機臺 手織機

製品ハ未タ精練ヲ施サ、ルヲ以テ品位ヲ判定スルニ由ナシト雖モ生織物ノ儘ニテハ欠點ヲ認メ難シ

縞シホン試織

營業者ノ依託ニシテ縞ノ部分ヲ綾地組織ニ成シ度キ希望ナリキ

- 一 原料 地經緯絲十四デニール撚數一メートルニ付千五百回縞絲二本諸撚數一メートル五百十回
- 一 箆密度 一寸間百枚
- 一 經絲密度 地一羽一本入縞一羽四本入
- 一 緯絲密度 一寸間百二十本
- 一 織上ケ 巾、一尺五寸 長、十二丈
- 一 量目 百五十五匁
- 一 機臺 デユードリツシ會社製トビー付力織機

製品々々位可良ナリ

鹽瀨羽二重試織

偶々營業者間内地向鹽瀨羽二重製織ヲ企ツル者多ク何レモ越後風ヲ學ハント欲スルモノ、如シ而シテ本場ニ來リ質ス者

亦多キヲ以テ試ミニ製織シタルナリ

一 原料 經緯共十四デニール

一 篋密度 一寸間百枚

一 經絲密度 一羽十本通シ(二本合モノ)

一 緯絲密度 十二本合セ一寸ニ付九十本打込

一 織上ケ 巾、一尺 長、六丈

一 量目 三百六十匁

一 織高 十時間一丈五尺

一 機臺 手織機

成蹟良好ナリ

二 丁杼バツタン試用

群馬縣桐生町關矢竹次郎ノ製作ニカ、ルモノニシテ價格金八圓五拾錢次ノ設計ニヨリ製織ヲ試ム

一 原料 經緯共十四デニール

一 篋密度 一寸間百枚

一 經絲密度 二本合セノ物一羽三本通シ縞絲二本諸撚三本通シ

一 緯絲密度 二本引揃一寸ニ付百八十本打込

一 織上ケ 巾、一尺五寸 長、十二丈

一 量目 三百三十匁

一 織高 十時間一丈五尺

一 機臺 手織機

成蹟、使用中別ニ甚タシキ欠點ヲ認メサリキ

内地製力織機ニ内地製「ドビー」應用試驗
營業者ノ「如何ニセハ内地製平織用力織機ニテ朱子ヲ織リ得ヘキ」トノ質問ニ對シ之レヲ示シタル者ニシテ即チ大橋式、

力織機ニ福井製「ドビー」ヲ裝置シ試織シタルナリ

一、原料 經緯共十四デニール

- 一 篋密度 一寸間百十枚
- 一 經絲密度 二本合セ物一羽四本通
- 一 緯絲密度 三本合セ物一寸ニ付百廿本打込
- 一 織上ケ 巾、一尺五寸
- 一 織高 十時間二丈
- 一 機臺 大橋式力織機

成蹟、可良ナリ別ニ故障ヲ認メザリキ

旭式力織機使用試験

當業者ヨリ提供實驗依託品ナリ東京市本所區外手町山中工場製木鐵混交力織機ニシテ送出シ及ヒテンブルノ裝置ナク亦
 タ經絲ニ張力ヲ與フルニハ重錘ノ作用ニヨラスシテ千卷ノ一端ヲスプリングニテ壓シ其摩擦ニヨリテ經絲張ルナリ殊ニ
 本織機ノ特異ナル點ハ卷取ノ加減裝置ニアリ即チ「フリックシヨンローラー」ハ捻子ノ作用ニヨリテ自由ニ其直徑ヲ伸縮
 セシメ得ルニアリ價格百貳拾圓次ノ設計ニ依リ川俣羽二重ノ製織ヲ試ミタリ

原料 經緯共十四デニール

- 一 篋密度 一寸間百枚
- 一 經絲密度 一羽二本通
- 一 緯絲密度 二本合セ物一寸ニ付百四十本打込
- 一 織上ケ 巾、一尺八寸
- 一 織高 十時間二丈

目下尙製織中ニ屬スルヲ以テ製品々位ハ充分ニ判定スルニ由ナシト雖使用ノ成蹟ニ徵スルニ經絲ノ張力一定セス從テ製
 品ニ織班ヲ生ス亦タ特異ノ卷取加減裝置ノ如キ其用ヲ成サ、ルニ非スト雖モ自動的ニ之ヲ成サス人力ノ助ヲ籍ル者ニシ
 テ從來ノ卷取加減裝置ニ比シ更ニ勝ル點ヲ發見セス寧ロ複雑ナルカノ嫌ヒアリ加之各部ノ製作遺憾ナキ能ハスシテ價額
 モ亦不廉果タシテ實用上如何アランカ疑ナキ能ハス

薄絹試製

本縣ニ最モ廣ク行ハル、平田式力織機ヲ以テ如何ナル品位ノ物ヲ得ヘキカヲ知ランカ爲メ試織シタルニアリ

- 一 原料 經緯共十四デニール

- 一 箴密度 一寸間八十枚
- 一 經絲密度 一羽二本通シ
- 一 緯絲密度 一寸間百本
- 一 織上ケ 巾、一尺八寸 長、五十ヤール
- 一 量目 百十匁
- 一 織高 十時間四丈
- 一 織臺 平田式

製品々位良好ナリ

縞シホン試織

本縣ニ於テ手織機ヲ以テ縞シホン製織シタル者アルヲ聞クモ力織機ニヨリ之レヲ織製シタル者アルヲ聞カス即チ本場ハ縣下ニ最モ多ク行ハレツ、アル平田式力織機ニヨリテ之レヲ織製ヲ試ミタルナリ

- 一 原料 經緯共十四デニール地絲經緯共撚數一メートルニ付千五百回縞絲諸撚一メートルニ付五百十回
- 一 箴密度 一寸間百五枚
- 一 經絲密度 地絲一羽一本通縞絲一羽四本通
- 一 緯絲密度 一寸間ニ付百五本
- 一 織上ケ 巾、一尺五寸 長、十二丈
- 一 量目 百九十匁
- 一 織高 十時間二丈五尺
- 一 機臺 平田式

成蹟、製織中欠點ヲ認メス製品々位亦良好ナリ

田淵式力織機使用試驗

總鐵製ニシテ京都市田淵鐵工場ニ於テ製作セラレタル者ナリ去ル三十九年中同工場ニ於テ製作シ曾テ本場ニ於テ比較試驗ヲ施シタル者トハ全然別種ノ織機ナリ價格金貳百圓使用上ノ適否如何ヲ知ランカ爲メ次ノ各種織物ヲ試織セリ

加賀羽二重

原料
篋密度
經絲密度
一寸間百十枚
經絲十五デニール緯絲十四デニール

原料
篋密度
經絲密度
一寸間百十枚
一羽二本通
二本合セ物鯨一寸間百八十本打込

原料
篋密度
經絲密度
一寸間百十枚
織上ケ
巾、一尺八寸 長、五十ヤール
百六十三匁
十時間三丈

羽二重
原料
篋密度
經絲密度
一寸間百枚
經絲十四デニール緯絲十五デニール

原料
篋密度
經絲密度
一寸間百枚
三本合ノ物一羽二本通
四本合セ物鯨一寸間百廿本打込

原料
篋密度
經絲密度
一寸間百枚
織上ケ
巾、一尺五寸 長、五十ヤール
四百十七匁
十時間二丈五尺

原料
篋密度
經絲密度
一寸間百枚
織高
十時間二丈五尺

原料
篋密度
經絲密度
一寸間百枚
織高
十時間二丈五尺

原料
篋密度
經絲密度
一寸間百枚
織高
十時間二丈五尺

原料
篋密度
經絲密度
一寸間百枚
織高
十時間二丈五尺

原料
篋密度
經絲密度
一寸間百枚
織高
十時間二丈五尺

原料
篋密度
經絲密度
一寸間百枚
織高
十時間二丈五尺

一 箴密度 一寸間百枚

一 經絲密度 一羽四本通

一 緯絲密度 四本合物鯨一寸ニ付百五十六本打込

一 織上ケ 巾、一尺八寸 長、五十七ヤール

一 量目 五百二十枚

一 織高 十時間二丈五尺

以上ノ各種製品々位並ニ製織中ノ狀況ニ徴スルニ本織機ハ成績佳良ニシテ欠點ヲ見出サズ殊ニ卷取ハ摩擦ローラーノ助ヲ籍ラス直接ニ布卷ニ卷取り粗密ノ度ハ自働的ニ調整セラル、裝置ナルヲ以テ重目羽二重製織ノ點ニ於テハ他ノ多クノ織機ニ勝ルカ如シ

双踏「ドビー」使用實驗

本機ハ當業者ノ實驗依託提供品ニシテ普通「ドビー」機ト異ル所ハ其ノ主要部ヲ綜統ノ直下ニ裝置シ踏木二本ヲ使用スルニアリ

本機ニ就テハ嘗テ愛媛縣工業試驗場ニ於テ調査試驗ヲ施シ之レカ成績ヲ公表シタルアリ本場ニ於テ施シタル實驗ニ徴スルモ殆ント同一ノ結果ヲ得タリ依テ同試驗場報告ノ一節ヲ籍ツ以テ當業者ニ答ヘタリ曰ク双踏「ドビー」機ノ長所トスル點ハ踏木二本ヲ使用シ交番ニ一本宛踏下クルヲ以テ普通ノ平織ニ從事セル職工ト雖モ練習ヲ要セス直チニ使役シ得ルニアリ蓋シ考案者ノ主旨モ亦茲ニ存スルナラン然レモ之レカ爲メニ益スル處ハ唯ニ一事ノミニテ却テ他ニ夫レ以上ノ欠點ヲ有スルハ考案者ノ爲メ遺憾トスル處ナリ左ニ其欠點ヲ摘示セントス

本機ハ其主要部ヲ綜統ノ直下ニ裝置シスプリングニテ上方ニ釣リ上ケラル、爲メ經絲ノ切斷セル場合其他經絲ヲ綜統ニ貫通スルヲ困難ナリ若シ弱キスプリングヲ使用セシカ杼道正確ナラズ且ツ本機ハシンダーヲ反對ニ運轉スルノ裝置ナキ爲メ一越シ前ノ杼道ヲ作ルニモ紋板ノ一回轉スル迄無益ニ踏木ニ踏マサルヘカラス是レ僅少ノ事ノ如クナレモ其時間ヲ浪費スルヲ實ニ多大ナリ紋板ハ普通ノ「ドビー」ニ比シテ二倍ノ數ヲ要シシンダーノ掛ケ外シ自由ナラス手數ヲ要スルコト多シ普通ノ「ドビー」機ニ比シテ優ルコト少ク却テ劣ル處多キヲ認ム

竹箴ト福井製金箴トノ比較試驗

茲ニ云フ福井製金箴トハ從來ノ金羽ヲ半圓形ノ鐵棒ニテ狹ミ針金ニテ編ミ付ケ此レヲ「ハンダ」ニテ蠟付シタル物ト異ナリ普通ノ竹箴ト同製法ニテ唯ダ竹羽ニ代ユルニ金羽ヲ以テシタル者ナリ

即チ金羽ヲ半圓形ノ竹棒ニテ狹ミ絲ヲ以テ編ミタル者ナレハ修繕最モ便ニシテ且ツ價格モ前者ニ比シ頗ル低廉ナリトス之レカ利害得失ニ關シ本場構内野澤屋模範工場ニ托シ實驗セシメタル處次ノ成績ヲ得タリ
製作者及ヒ箴ノ種類

金箴、福井市尾上下町加藤常三郎製鯨一寸ノ密度百枚立二尺四寸用出來上リ二尺六寸
竹箴 同上

織機ハ何レモ木本式力織機ニシテ六付見當ノ羽二重ヲ製織シタリ今各箴ノ製織量ヲ比較スレハ

金箴ヲ用ヒタル場合ニハ一機十本分宛整經シ十回製織シ得タリ即チ合計百本ニシテ此間箴ノ修繕四回ナリキ

竹箴ヲ用ヒタル場合ニハ一機六本宛整經シ六回製織シ得タリ即チ合計三十六本ニシテ此間箴ノ修繕同シク四回ナリキ以テ兩箴ノ價格並ニ修繕費ヲ比較スレハ

金箴價格(一寸間百枚二尺四寸用)

五圓貳拾錢

四回修繕料

貳圓八拾錢

合計

八圓

竹箴價格(同上)

貳圓七拾錢

四回修繕料

壹圓參拾錢

合計

四圓

以上ノ成績ニ徴スレハ前者ハ其費用八圓ヲ以テ能ク百本ノ羽二重ヲ製織シ得ラル、ニ後者ハ其ノ二分ノ一ヲ要シ製織量ハ約五分ノ二ニ過キヌ加之前者ハ一回十本宛整經シ得ラル、ニ對シ後者ハ六本以上ヲ整經シ得ス從テ工費及ヒ屑絲經濟ノ上ニ於テ且ツ亦製品々位ノ點ニ於テモ前者ヲ以テ勝レリトス
福井式整經機ノ改良

佛國チユードリツン會社製整經價格八百貳拾八圓ニ對シ福井式整經機ハ價格僅カニ約貳拾五圓ニ過キヌ元ヨリ機械トシテノ品位精粗等同日ノ論ニ非サレモ其生産額ニ至リテハ大差ヲ認メス唯タ福井式整經機ニ於テ最大欠點トスル處ハ絲經ヲ整經梓ニ卷キ取ル際經絲ノ移動裝置ナキコト之レナリ

僅々二三本整經スル場合ニハ此ノ裝置ナキモ著シキ欠點ヲ見出サスト雖モ多數ニ整經スル際ニハ甚ダシキ欠點ヲ製品ノ上ニ現出ス即チ此ノ裝置ナキ者ハ經絲ハ卷カル、ニ從テ山形トナリ山頂ニ於ケル經絲ト山麓ニ於ケル經絲トハ其長サヲ異ニス故ニ其ノ短キ者ハ製織ノ際無理ニ引延サレ爲メニ此ノ部分ハ練上後縮ミテ著シキ引ツリヲ現スルニ至ル之レヲ防

クニハ經絲ノ移動裝置ヲ附シ以テ各經絲ノ整經長ヲ全ク相等シカラシメサルヘカラス
 本構内野澤屋模範工場ニ於テ福井式整經機ニ此ノ移動裝置ヲ附シ使用ヲ試ミタルニ成績極メテ良好ニシテ之レニ由テ整
 經セラレタル羽二重ハ更ニ從來ノ欠點ヲ認メズデユードリツシ會社製整經機ヲ用ヒタルモノニ比シ大差ナキカ如シ斯ル
 カ故ニ福井式整經機ニ此ノ移動裝置ヲ附屬セシムルハ極メテ緊要ナルコト、信スルナリ

福井式糊付法ニ金澤式糊付法併用ノ利益

福井地方ニ於テ一般ニ施行シツ、アル糊付法ハ小梓ニ繰返シタル絲ヲ糊皿中ヲ通過セシメテ更ニ他ノ小梓ニ巻取ル者ト
 ス(一度糊ノ際ニハ合絲シツ、糊付スルヲ普通トス)金澤地方ニ於テ一般ニ行ハル、法ハ小梓ニ繰返シタル糸ヲ底部ニ
 小孔ヲ有スル糊皿中ヲ通過セシメテ大梓ニ巻取ルナリ

今兩者ノ得失ニ就テ考察スルニ各々一得一失アリ即チ福井式ニ在リテハ合絲シツ、糊付工程ヲ施シ得ルノ利益アルモ生
 産高ノ點ニ於テ金澤式ニ劣ル處アリ亦金澤式ハ生産力ニ於テ福井式ヲ凌駕スルモ合絲工程ト糊付工程ヲ同時ニ施シ難キ
 不利益アリ茲ニ於テカ兩者ヲ併用シ各々其長所ヲ發揮セシメント試ミタリ即チ一度糊付ノ場合ニハ福井式ニ依リ合絲工
 程ノ糊付工程ト同時ニ行ヒ二度糊付ノ場合ニハ最早合絲ノ必用ナキヲ以テ金澤式ヲ採用シ糊付ヲ成スニアリ

斯ノ如クセハ大ニ生産力ヲ増加シ得ルナリ野澤屋模範工場ノ實驗ニ徴スルニ二度糊付ノ際ニ金澤式ヲ併用スルニ於テハ
 福井式ニ比シ約二倍ノ生産力アルカ如シ以上ハ二本經ノ場合ニ於ケル實驗成績ナルカ一本經ノ場合ニ於テハ勿論金澤式
 ヲ用ユルニ於テ生産力大ナルヘシ

調革滑止メ實驗

普通一般ニ行ハル、調革ノ滑リ止メ法ハ松脂ノ粉末ヲ調革ト調車トノ摩擦面ニ撒布スルニアリ此ノ方法ハ効ナキニ非サ
 レル多クハ一時的ニシテ久シキニ保チ能ハサルノ憾アリ由テ次ノ方法ニヨリ實驗ヲ試ミタリ

第一、松脂ト膠トヲ各種ノ量ヲ以テ混合シ使用ヲ試ミタルモ効果ヲ認メサリキ

第二、松脂五十匁ニ對シ車軸油一合ノ割合ヲ以テ兩者ヲ混シ使用ヲ試ミタルニ滑リハ防止シ得タルモ調革調車互ニ甚シ
 ク粘着シテ原動力ニ重荷ヲ與ユルノ欠點ヲ生セリ

第三、依テ更ニ數回實驗ヲ反覆シタル後次ノ如キ滑止メ劑ヲ製出シ依之完全ニ滑リヲ防止シ亦タ互ニ甚タシク密着スル
 ヲ免レ得タリ

地 蠟 百 匁
 松 脂 五 十 匁

車軸油

五、合

之レカ製法ハ先ス松脂ヲ溶解シタル後之レニ地蠟ヲ加ヘ充分混合スル迄沸煮シ更ニ車軸油ヲ入レ約十分間沸煮ヲ續ケテ使用ス若シ冷却セシ物ヲ使用セント欲スル時ハ文火ニテ溶解シ使用ス

其他ノ事業

明治四十一年度内ニ於テ縣内外ノ機業者及練業者等ヨリ織物及精練業等ニ關スル質疑ヲ受ケ又ハ鑑定ノ依頼ニ對シ應答又ハ鑑定ヲナシタルモノ百十件ニシテ之ヲ細別スレハ左ノ如シ

一、原料及製品ノ分拆、試験鑑定

十一件

一、機械ニ關スル質疑應答

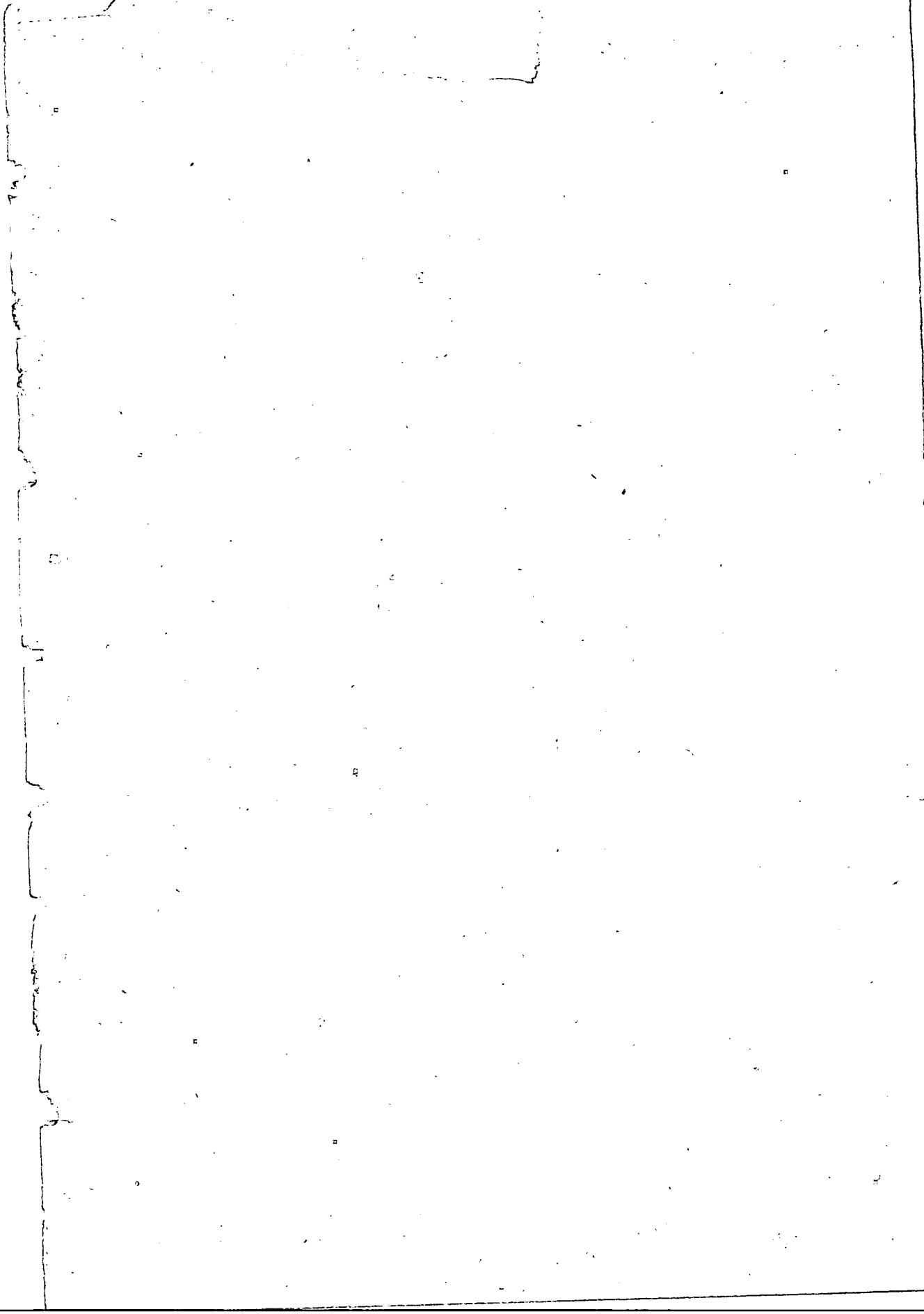
二十一件

一、織物ニ關スル質疑應答

四十八件

一、色染ニ關スル質疑應答

三十件



明治四十三年三月三十一日印刷
明治四十三年五月三十一日發行

福井縣

岐阜縣安八郡大垣町大字郭百五拾參番戶
西濃印刷株式會社代表者

印刷者 河田貞次郎

岐阜縣安八郡大垣町大字郭百五拾參番戶

印刷所 西濃印刷株式會社

電話五番

